

## 第3学年 道徳の時間学習指導案

1 題材 「ダイとゲン」(本時1/1) (19) 生命の尊さ

資料 「ダイとゲン」

出典 中学校道徳『自作資料集』 著者 松原 好広

2 本時の目標

(1)自分の意見を発表したりや友人の意見を聞いたりしながら、自身の考えを深めようとする。(態度)

(2)対立する二つの意見に対し、自身の道徳的価値観を元に、よりよい判断を考えようとする。(判断)

3 ESD新香山プラン

視 点	つながり			活動	手 だ て
	教材	人	勸・諷		
S 相互性		○	○	6	感想の発表を通して、異なる価値観を認め合うよう教師の助言を工夫する。
H 多様性	○	◎		4	様々な考え方に気付くために、話し合い活動を取り入れる。
A 連携性		◎	○	5	自分の意見を深化させるために、級友の意見を聞く場を設ける。

4 展開

段階	生徒の活動	教師の活動
導 入 (5)	1 一年生の時に総合学習で学んだ「外来種」について振り返る。 ・私たちの身の回りにも、古くからいるタンポポと外来種が混在していた。	・一年生の時に総合学習で学んだ「外来種」について、タンポポの話題を出して振り返る。 ・人間側と外来種の両方の立場からの意見を引き出す。
問 題 (2)	2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">外来種はどう付き合っていけばよいのだろうか</div>	・黒板に本時の学習課題を書く。
展 開 (38)	3 ゲンとダイを読む。 ・ヌートリアは畑を荒らすから、ゲンもダイも保護されるべき。 4 ゲンとダイを読み、「大すけ」はお父さんにゲンとダイのことを言うべきか話し合う。 ・お父さんに聞かれているのだから、きちんと話すべき。 5 自分が大すけならばどう考えるか ・かわいそうだけれど、お父さんの言う通り保護されなければならない。 ・ゲンとダイが保護されたら会えなくなるから、話さない。	・場面が理解しやすいように場面絵を提示する。 ・主人公の感情を表現しながらゆっくり読む。 ・「言うべき」、「言わなくてよい」の <u>どちらの意見も認めながら話し合い活動を進める。</u> <u>(H多様性)</u> ・「言うべき」と「言わなくてよい」それぞれの意見を分けて板書する。 ・自分が大すけの立場だった場合に、どのようにするか問い、意見を発表する時間を設ける。 ・ <u>前の意見をもとに、どうあるべきか発表した生徒を称賛する。(A連携性)</u>
整 理 (5)	6 本時の振り返りをする <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">・ヌートリアの命も尊重されるべき。 ・それぞれの立場の考えを大切にしないではいけない。</div>	・ <u>本時の振り返りを書くように促し、発表する時間を設ける。(S相互性)</u>

5 評価

(1)級友の意見を聞き、さまざまな価値観があることに気づき自分の考えを振り返ることができたか。

(活動4, 5の様子, 記述から)

(2)対立する二つの意見に対し、自分の価値観を元に、級友の意見を取り入れながら、判断をすることができたか。

(活動4, 6の様子, 記述から)



大すけは、以前から佐木川で見つけたヌートリアに夢中で、毎日エサをやりに通っている。一番大きいヌートリアは、自分の名前の1字をとって「ダイ」と、泳ぎの得意なヌートリアには「ゲン」と、名付けていた。

「おい。ゲン、ダイ、元気か？」

と大すけは大声で呼び、リンゴを投げてやった。すると、ゲンとダイは、鼻でおいをかぎ、大きな前歯で一口で食べてしまった。大すけは、ゲンとダイの食事をしている様子を見るのが楽しくて仕方がない。大すけは、ゲンとダイのすがたを見ているだけでうれしい気持ちになった。

ゲンとダイがなついてくると、どんなところに巣を作るのか、好きな食べ物は何か、家族で住んでいるのかなど、大すけは「ヌートリア」についていっぱい知りたいことが出てきた。そこで、「佐木自然博物館」で働いている大すけのおじさんにこの動物について聞いてみた。

「ヌートリアは草食動物で、後ろ足に水かきがあり、泳ぎが得意で、水辺に穴をほり、群れを作って生活しているんだ。もともと日本にはいなかった動物だ。それが昭和14年(1939年)にアメリカから150頭のヌートリアを輸入したんだが、その後、逃げ出したりして次第に野生化してしまったんだ。

今は、西日本(近畿、中四国地方)を中心に生息し、兵庫県でもヌートリアが住んでいる。この近くの三田市の武庫川沿いでも見ることができる。大すけのかわいがっているヌートリアも、以前に野生化した仲間の子どもたちだよ。」

少し間をおいて、さらにおじさんは教えてくれた。

「ヌートリアのように外国から入ってきて野生化した動物を帰化動物と呼んでいる。日本には、ヌートリア以外にもたくさんの帰化動物がいるんだ。今、問題になっているのは、これらの帰化動物が、もともと日本に住んでいた動植物を食べて絶滅させるのではないかということだ。だから、日本の動植物の命を守るためにも、帰化動物を早く処分すべきだと考える人がいる。また最近では、ヌートリアが増えて、農作物を食いあらず被害が出ている。農家の人はヌートリアを有害動物としてきらっているようだ。でも反対に、全ての動物には大切な命があるし、人間が日本へ持ち込んでしまった生き物なんだから、すぐに処分すべきではないと考える人もいる。本当の被害者は、ヌートリアをふくむ帰化動物じゃないのかなあ。」

大すけは「本当の被害者は、ヌートリアかもしれない……」という言葉聞いて「本当の被害者はどっちなんだろう。」と考え込んでしまった。

それから、1カ月がたった頃だった。隣の西町でヌートリアによる被害が出たということをお父さんが教えてくれた。田んぼや畑の農作物を食べあらし、「20頭のヌートリアが処分された」ということだった。その事件後、畑仕事をしているお父さんは、田んぼや畑があらされないようにあみをはった。

お父さんは、おいしい野菜を作ることにかけては、昔から自信を持っていた。例え暑くても雨がふっても毎日畑に出かけあせを流しながら、一生けんめいに野菜作りをしていた。よく育った野菜を見ているときのお父さんの笑顔が大すけは大好きだった。

ある日、大すけが学校から帰ってくると、お父さんは怒ったように言った。

「大すけ、ヌートリアのいる場所を知ってるそうだな。その場所をお父さんに、教えなさい。」

「えっ、どうしたの、お父さん。」

「最近、ヌートリアが畑を荒らしているんだ。お父さんの畑だけじゃない。折角作った農作物がだいなしだ。収かくまで後少しだったのに……。」

さらにはげしい口調で、

「今、つかまえないと、この町全体の畑に被害が広がってしまう。ヌートリアは保護動物だから、勝手につかまえられない。そこで今日、市役所に行って、畑に被害がでたので捕まえる許可を取ってきた。だから大すけ、お父さんに場所を言いなさい。」

と大すけを問いただした。

ヌートリアがお父さんたちの畑を荒らすのは本当に困る。しかも町全体に広がると……。しかし、かわいいゲンとダイを思うと。そのとき「本当の被害者は……」というおじさんの言葉も思い出された。大すけは困ってしまった。居場所を知っているのは大すけだけである。

大すけはお父さんに言うべきでしょうか、

それとも言わないべきでしょうか。

